

日時	2025年2月8日(土) 10:00 ~ 12:00 天候：晴
場所	湿地、2階交流スペース
講座・活動名	湿地モニタリング調査 & 観察園全樹木調査 毎月第2土曜定例 (今回講師の都合で日程変更)
参加者	20名 構成：講師2名、(環境局1名) NTT西日本関西支店7名、エコボラ7名、一般1名、事務局2名
講師名	鈴木真裕(大公大)、北川ちえこ* (エコボラの場合氏名に*印をつける)
内容	生き物調査、標本作製、データ入力、(報告書作成)
使用器材 資材・道具	(持参、借用等も含む) 調査用紙、ボード、バケツ、網、バット、スポイト、マイクロスコープ、PC
振り返り エコボラ通信に 掲載することが あります。	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地水面の日陰部分は凍っていた ・全体的に冬枯れで、植物種は少なく、変化がなかった ・湿地周囲の境界石が枯れ草や泥に埋もれているので、草取りなどを行い、境界が見えるようにした ・石が沈み込む原因は、東岸の通路は人が通行するため、踏圧で水際へ石がずれてきているのかもしれない ・すくい採り調査の際に、水際の植物を踏みつけないようにしたい ・今回のアメリカザリガニは1匹だけ捕獲できた ・前回多かったハイイロゲンゴロウは少なかった ・一般参加で岡谷崇宏さんが今回もプランクトンを採集した <p>全樹木調査の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は水路より西側の樹林内の高木を対象にしたが、常緑の樹木が藪のようになって樹冠が見えにくく、高低差もあるため、今回は12本の計測にとどまった ・水田をまたいで、スラントレベルを構える人とスケールを確認する人、樹木のそばで樹周を計測する人とロングメジャーの端を押さえて記録する人の4名1組で測定した
事務局への 伝達事項 次回案内等	

スタッフ氏名	活動内容	参加者氏名	活動内容
西田敏子	植物調査	NTTのみなさん	動物調査、樹木調査準備7名
木山正隆	植物調査	鈴木真裕	動物調査、標本整理
竹原秀樹	植物調査	北川ちえこ	植物調査、境界石周囲草取り
中谷憲一	昆虫調査	(環境局 諸岡)	植物調査、樹木調査準備
林耕太	植物調査	(事務局 新名)	器材・資料準備、撮影
鈴川博司	境界石周囲草取り、枝伐り	(事務局 村上)	器材・資料準備、撮影
柘元慶子	樹木調査準備、撮影	一般 岡谷崇宏	プランクトン採取

いずれかに○→(○)裏面に図面、写真等を添付した ()裏面なし ()詳細はファイルで提出

日時	2025年2月8日(土)	記録者	柘元慶子
講座・活動名	湿地モニタリング調査		

湿地の状況 250208

給水中

水の濁りは底がやや見える程度

南方向 250208



北方向 250208



湿地の状況 250208

日陰では水面が凍結



西岸 250208

No.70工ノキ (こも巻き)



東岸 250208

日時	2025年2月8日(土)	記録者	柘元慶子
講座・活動名	湿地モニタリング調査		

湿地の調査 250208



すくい採り 250208



すくい採り 250208

湿地周囲の維持管理 250208



石を覆う枯れ草と落ち葉を除去 250208



周囲の石が現れた 250208

日時	2025年2月8日(土)	記録者	榎元慶子、中谷憲一
講座・活動名	湿地モニタリング調査		

湿地の生き物 250208



イグサ



ジョウビタキ
中谷憲一撮影

ジョウビタキのほか、シロハラも
近くまで飛来

湿地の生き物 250208



カワリヌマエビ類

カワリヌマエビ類は多数



アメリカザリガニ

アメリカザリガニは
1匹のみだった



ヒメタニシ

日時	2025年2月8日(土)	記録者	榎元慶子
講座・活動名	湿地モニタリング調査		

湿地の生き物 250208



コマツモムシ

コマツモムシは1匹のみ



ハイロゲンゴロウ

前回多数いたハイロゲンゴロウは
今回少なかった どこにいったのかな？

湿地周囲の調査 250208



湿地横のNo.70エノキに
こもが巻かれた状態
241214

湿地横のNo.70エノキ



米講座でこもを一旦はずした
250208
調査後、巻きなおし、4月に
エノキの新芽が出るまでそのま
まにしておく

米講座でこも外し調査



ゴマダラチョウ幼虫8頭が
こもの中で越冬中だった

日時	2025年2月8日(土)	記録者	柘元慶子
講座・活動名	観察園全樹木調査		

観察園全樹木調査 250208

この日の計測は水路西側の樹林を対象に実施

